

千葉市から千葉県を元気に!!

小川としゆき 之 智 県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会
〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13 電話 043(227)7411

2月県議会一般質問

急がれる防災。減災対策の強化

都川の整備計画改定を

昨年4月の県議会選挙で千葉市若葉区から立候補し、見事トップ当選を果たした小川としゆき県議は、6月定例議会に引き続き、2月定例議会の一般質問に登壇し、地震対策や水害対策、千葉県の国際戦略に加え、県営住宅の老朽化対策等について、市民・県民の立場から執行部にたずねました。その他の質問も合わせて答弁及び要望について、その概要をお伝えします。

小川議員 元日に発生した能登半島地震では、多くの方々が未だ避難所生活を強いられ、多くの課題が浮き彫りになっている。先日、自民党青年局の有志で、熊本地震で最も被害が大きかった益城町を訪問したが、広域的な災害における県と市町村の連携は極めて重要と感じた。また避難所生活における



2月県議会一般質問に登壇した小川議員

二次災害を防ぐためにも、避難所の設備や機能強化は重要であると感じた。わが自民党では、防災資器材の調達も平時も非常時でも分けることなく便利に活用できるフェーズフリーの考えを推進している。

避難所は、主に学校などの公共施設が指定されており、平時から利用されている体育館や教室などの施設のほか冷暖房や発電機などを、災害時には避難所運営に活用することとなります。県では、避難所運営の際に必要な資器材の整備に對して助成を行っており、今後も、市町村の避難環境の確保に向けた取組を支援してまいります。

レルギーのある方もいるため、飼い主が他の避難者に遠慮して避難所の駐車場で車中泊をし、体調を崩す場合があることや、避難そのものをためらう、二次被害の発生の原因となる等の問題があります。県としては、引き続き、市町村に対して避難所の運営方法に関する好事例を紹介するなど、飼い主が災害時に安心して避難できる環境の整備について促してまいります。

私に住む若葉区においても、都川が溢水する被害が多く、大草交差点付近が冠水することから抜本的な対策を求めるところである。そこで何う。都川上流域の今後の浸水対策の進め方はどうか。

小川議員 また、今回の能登半島地震では、ペットを飼っている方が、避難所に一緒に行けないために、自宅避難や車中避難を余儀なくされ、支援が行き届いていない状況があると報告を受けた。避難所における飼い主とペットの同居について、県はどのように考えているのか。

保健医療担当部長 避難所には、動物が苦手な方やアレルギーのある方もいるため、飼い主が他の避難者に遠慮して避難所の駐車場で車中泊をし、体調を崩す場合があることや、避難そのものをためらう、二次被害の発生の原因となる等の問題があります。県としては、引き続き、市町村に対して避難所の運営方法に関する好事例を紹介するなど、飼い主が災害時に安心して避難できる環境の整備について促してまいります。

小川議員 災害は地震だけでなく、異常気象に伴う、台風や線状降水帯の発生による風水害が頻発しており、県内各地で浸水被害等が報告されている。

今後、大草橋付近において、河川監視カメラを設置や、千葉市の道路事業と連携した堤防かさ上げ工事に着手していく予定です。

総合企画部長 本県は成田空港や千葉港を擁するとともに、京葉臨海コンビナートなどの素材・エネルギー産業の拠点、豊かな自然環境、農林水産物、観光資源など、様々な強みを有しています。こうした強みを本県の発展に活かすため、県では、総合計画の下で、農林水産物や食品の輸出の促進、外国人観光客の誘客、県内企業の海外展開支援や外資系企業の誘致など、各部署が戦略性をもって国際関係施策を推進しているところです。

小川議員 国際課では、毎年県内市町村を対象に各市町村における国際化施策の実施状況を調査し、発表している。

そこで何う。毎年度行っている市町村国際化関連施策調査の結果をどのように活用しているのか。

総合企画部長 県内における国際化の取組の充実を図るためには、市町村の取組が欠かさないことから、施策の立案や相互連携に役立てていただくよう、市町村に調査結果を提供しています。

小川議員 県は、県内中小企業の海外展開について、どのように支援しているのか。

商工労働部長 県では、JETRO千葉貿易情報センターと連携し、海外の市場動向や各国の法制度・規制措置、海外展開に必要な契約実務等について、セミナーの開催や窓口相談、専門家派遣等による支援を行っております。

また、国内で開催される国際的な食品見本市である「FOOD EX JAPAN」や、デュッセルドルフ市で開催される世界最大の医療機器展「MEDICA」に千葉県ブースを設置し、県内中小企業に出展機会の提供も行っているところがございます。

戦略を明確化し

国際関係施策を推進せよ

小川議員 新型コロナウィルスが蔓延する以前は、多くの自治体において国際戦略を策定し、「外需の獲得」、「外需の呼び込み」、「人材育成」と、大きく3つの柱に分類して、推進されてきた。さらには、在留外国人の地域社会への参加を促進するといった多文化

共生社会の実現に向けた取り組みも推進されてきた。本県は、空の玄関口である成田空港と、海の玄関口である千葉港を有する、まさに我が国を代表する海外の玄関であり、この地域特性を生かしながら、本県の活性化を進めていく上でも本県の国際戦

略を進めていくべきである。しかし、本県の国際戦略も、令和2年度でその計画期間を満了しており、新たな戦略を策定していない。

そこで何う。本県の国際関係施策をさらに推進していくため、戦略を明確にして取り組むべきと考えるがどうか。

総合企画部長 本県は成田空港や千葉港を擁するとともに、京葉臨海コンビナートなどの素材・エネルギー産業の拠点、豊かな自然環境、農林水産物、観光資源など、様々な強みを有しています。こうした強みを本県の発展に活かすため、県では、総合計画の下で、農林水産物や食品の輸出の促進、外国人観光客の誘客、県内企業の海外展開支援や外資系企業の誘致など、各部署が戦略性をもって国際関係施策を推進しているところです。

小川議員 国際課では、毎年県内市町村を対象に各市町村における国際化施策の実施状況を調査し、発表している。

そこで何う。毎年度行っている市町村国際化関連施策調査の結果をどのように活用しているのか。

総合企画部長 県内における国際化の取組の充実を図るためには、市町村の取組が欠かさないことから、施策の立案や相互連携に役立てていただくよう、市町村に調査結果を提供しています。

●千葉市と千葉県政に関するご要望をお寄せください。

議 小川としゆき 事務所
〒264-0017 千葉市若葉区加曽利町1032-81
TEL. 043-232-1435

ホームページもご覧ください ▶ <https://www.ogatoshi.com>

老朽化した県営住宅の早期整備を！

小川議員 若葉区には県内でも最も県営住宅が集積しているが、私が生まれた昭和48年以前に建てられた築年数50年を超えるものも多く、老朽化が進んでいるのが課題となっている。

現在、平成31年に改訂された長寿命化計画に則って、計画的に整備されているが、壁の崩落や手摺の錆など、危険な状態になっている物件もあり、個々に対応してきたさつてはいるが、抜本的に対

策を取らなければならない状況にあり、住民からも早期改修が求められるところである。

そこで、何う。若葉区内の県営住宅の老朽化対策について、県はどのように認識しているのか。

都市整備局長 千葉市若葉区内にある県営住宅は、鉄筋コンクリート造で104棟あり、耐用年数は70年となっていますが、全体の約3割が築50年を超えてお



自席から要望する小川県議

り、劣化が進んでいます。このため、県では、平成30年度に策定した千葉県営住宅長寿命化計画に基づき、劣化・老朽化が進んだ団地の外壁や屋上の改修工事を、順次実施しているところ

です。

小川議員 長寿命化計画も計画期間の半分以上が過ぎ、計画を見直しする原則の5年を超えている。長寿命化計画の見直しを行うこととしているが、現在

の検討状況はどうか。

都市整備局長 現行の県営住宅長寿命化計画は、策定から5年が経過したため、今年度から見直し作業を実施しているところです。

現在管理している県営住宅全体の約3割が築50年を超えており、今後一斉に更新時期を迎えるため、長寿命化による建替の平準化や団地の集約・再編を行っていく必要があります。

今後は、団地の高齢化・世帯

要望 都川河川整備計画の見直しにしても、老朽化対策についてもなかなか県の方が思うように進んでいない状況にあるので、引き続き、早急に進めていただきたい。

人材育成で行政改革を進めよ

小川議員 わが県では、令和4年3月に策定した「千葉県行政改革指針」に基づき、「時代の変化に対応した県民視点の県政の実現」の理念の下、改革の着実な推進を図っているところである。そこで何う。県民視点の職

員を育成するため、どのような改革に取り組んできたのか。

知事 県では「千葉県行政改革計画」に基づき、様々な行政課題に的確に対応できる人材の育成に取り組んでいます。

具体的には、行政では得

にくい様々な民間のノウハウを学ぶため、民間企業との人事交流を令和3年度の2名から9名に増やすとともに、副業人材の活用を昨年度から開始しました。

また、次代を担う若手職員で構成するプロジェクト

チームを設置し、県の新たなブランドイメージのPR方法等を検討し、施策に反映させたところです。

さらに、県民の皆様からの提言制度である「わたしの提言」を、インターネットでの受付を可能とし利用しやすい仕組みに改良するとともに、いただいたご意見を県政運営の参考とするよう、各部署での検討を促してきたところです。

小川議員 近年、政策形成にナッジやサービスデザイン

の視点を取り入れることが非常に注目を集めている。ナッジとは、行政やビジネスシーンでは「経済的なインセンティブや行動の強制をせず、行動変容を促す戦略手法」であるナッジ理論として知られている。

また、サービスデザイン

房総ジビエの有効活用を図れ

小川議員 本県では、平成28年から、県内で捕獲されたイノシシやシカの肉を「房総ジビエ」と銘打ち、消費拡大に取り組んでいる。

一方で、多くの飲食店から、調達先を紹介しても予定通りに仕入れができない、流通が確立されていないので、割高であるなど、供給や流通に課題があることが指摘されている。当

然、捕獲鳥獣であるので、供給が安定しないのは致し方がないのだが、自然保護課で捕獲を支援し、流通販売課でも販売促進をしているにも関わらず、値段が高く、県民の口になかなか入らない状況は

どこかに課題があるとしたか考えられない。

そこで何う。捕獲したイノシシの食肉利用の状況はどうか。また、食肉利用の拡大に向け、どのように取り組んでいるのか。

農林水産部長 これまで県では、捕獲したイノシシなどの食肉利用の拡大に向け、市町村等による処理加工施設の整備等を支援するとともに、解体従事者の育成研修に取り組んできたところ

です。

この結果、県内の処理加工施設は平成30年度の6か所から現在は15か所にまで増加しており、引き続き、食肉利用の拡大に向けて取り組んでまいります。

小川議員 また、本県では、特定外来生物であるキョンの分布拡大や生息数の増加が進んでいることから、「千葉県キョン防除実施計画」を策定して駆除しているが、キョンの肉は、台湾等

で高級食材として扱われており、房総ジビエとしても馴染むのではないかとと思われる。

そこで何う。キョンの駆除を進めるため、キョンを房総ジビエに含め、利活用を進めるべきと思うがどうか。

農林水産部長 特定外来生物であるキョンについては、第2次千葉県キョン防除実施計画に基づき、完全排除に向け取り組んでいるところですが、捕獲した鳥獣を有効に活用することは、捕獲従事者の意欲を向上させ、積極的な捕獲の推進につながるものと考えています。

そこで、房総ジビエとしてのキョンの利活用に向け、昨年度から料理コンテストにおいて、シェフによるキョンの参考料理の提供や皮革製品の展示を通じて、外来生物問題に関する普及啓発を行い、県民や社会の反応を確認しているところです。

予算委員会質問項目

1. 小規模事業経営支援事業費等補助金について
2. 災害ボランティアセンターについて
3. 「ちば文化」創造・継承事業、軽音ちば事業について
4. チーパス事業について
5. 多様性尊重に関する普及啓発事業等について
6. 仮想空間を活用した地球温暖化対策普及啓発事業について
7. 移住・定住促進事業について
8. 動物愛護について